

☆町政についての意見交換会を開催しました！

みなさんからいただいたご意見・ご質問を紹介します。

会場でお答えできなかった点や、その後対応を検討した点について追記しています。

※追記部分～下線

【意見・質問】

○地域おこし協力隊について

- ・早い時期から積極的に取り組んでいる町村もあるが。
→町：幌延町に適した取組み方を検討しながら、職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、現在、来年度の導入に向けて取組みを進めている。
※来年度は2～3人の導入、高齢者生活支援への導入を軸に検討中。
- ・募集方法は。
→町：町のプロジェクトチームが中心となり、町広報誌、町HP、関係機関の情報サイト等を活用し募集する。
受け入れ体制の整備もあわせて進めて行く。
- ・町だけでなく地域の受け入れ体制づくりも移住につなげていくためには重要。

○幌延深地層研究センターについて

- ・町民として、深地層研究施設に関する正しい知識を持つ必要があると感じる。
→町：誤解している部分があるのは事実。町が施設見学を含めた勉強の場を提供することも可能。

○町施設について

- ・名林公園遊具の老朽化が気になる。壊れないか心配。
→町：現在、一部使用を禁止している。来シーズンの開園までに修理する予定。
※使用禁止について～遊具への張り紙、告知端末による周知
- ・生涯学習センター（幌延）調理室の台所が使いづらい。調理を伴う集まりの際、保健センター調理室（学習指導実習室）を使えるようにしてもらいたい。
→町：使用することができます。
※空き状況や使用料の確認、使用申請提出先～保健センター（5-1790）
- ・生涯学習センター（幌延）中庭について、春先や冬でも快適に使用できるよう暖房設備等の設置を検討していただきたい。
→町：建設の経緯、構造上の理由により難しいが、再生可能エネルギーの実証事業の実施等による対応を今後、検討したい。
- ・生涯学習センター（幌延）中庭について、国際交流施設側に喫煙室からの排気口がある。子どもが使う施設なので配慮していただきたい。
→町：状況を勘案し、現在は排気口を使用していません。（※幌延センター確認）

・雪印から北星園に向かう道（町道幌延下沼線）について、バイパスの下を抜けると道が急角度に曲がっている。整備はあの状態で終わりなのか。

→町：今年度分の整備は終わりですが、最終的には緩やかな線形に整備されます。

※事業区間：酪農橋～下沼小島の沢川ボックス手前

・公共の場にインターネットのフリースポットの設置を検討していただけないか。

→町：設置を検討したい。（国補助制度あり。）

・電気自動車用急速充電器の利用状況は。

→町：今年の9月1日に運用を開始してから、通常の利用は7件、9月6～7日に開催したおもしろ科学館でのエコカー試乗会での充電体験が11件。

ぜひ、町民の方もEV利用を推進してもらいたい。

・下水道（合併浄化槽）を使用しているが、使用料は何に使われているのか。使用料がかかるので、接続しないという選択肢もあるのか。

→町：設置義務はありませんが、町は生活環境保全・整備のため、合併浄化槽の整備に取り組んでいます。使用料は、施設・設備の維持管理・管渠の補修・清掃等の費用に使われています。

○町広報誌について

・以前に掲載された認定こども園の平面図が見つらなかった。

→町：今後予定している認定こども園の特集記事掲載時に再度、見やすいものを掲載します。

・転入者向けに、体育・文化サークル等の紹介記事を掲載していただけないか。友達づくりに役立つと思う。

→町：掲載を検討する。町HPへの常時掲載もあわせて検討する。

○地域の過疎化について

・地域の存続について危機感を抱いている。すぐにでも対策を講じるべき。

・酪農業が元気になることが、地域の盛り上がりや雇用につながる部分もある。

・住宅がない、生活に不便等の理由から、移住までつながらない。（近隣からの通勤者）
→町：地域おこし協力隊を活用した地域への新しい仕事づくりも考えていきたい。

・若い世代に元気がないように感じる。町を活性化していくためにも、何かを考えていかなければならないと感じる。

・JA問寒別の規模縮小（整備工場の閉鎖）に危機感を抱いている。

・産業の発展には、町全体で縦横のつながりを持ってしっかり取り組んでいかなければならない。立派な環境を整備しても人がいなくなってしまうたら何の意味もない。

・問寒別地区の高齢化、過疎化に危機感を抱いている。このままでは地域が維持できなくなる。地域行事を行うにしてもかなり大変になってきている。

→町：問寒別地区の人口減少は深刻で、町も危機感を持っている。学校の存続も危うくなる。今、国でも人口減少対策に力を入れているが、町もその考えに沿って、

真剣に仕事や働く場づくり等の対策を講じなくてはならない。

- ・地区の人が減ったことにより、活動資金が少なくなっている。
→町：宝くじのコミュニティ助成事業を活用する方法もある。町内会の自主的な活動に対してであれば、町からの支援を検討する余地はある。
- ・問寒別町民会館の維持管理については、町内会で主に行ってはいるが、高齢化が進み、現役世代の人員不足からひとりあたりの負担が大きくなってきている。

○酪農業について

- ・後継者づくりの一環として、ファームステイや実習生の受入れ体制づくり、意識改革に取り組んでいる。
- ・後継者としての自覚、将来像をしっかりと持つことも大切だと感じている。
- ・酪農業で発生する産業廃棄物の処分に頭を悩ませている。
→町：産業廃棄物の処理については、町が手を出せる分野ではないが、地域の問題として認識させていただく。
- ・離農が深刻化している。後継者不足もあるが、労働力不足の解消や息抜きできる環境づくり、臨時的な託児等による子育て世代への支援も必要と感じる。
→町：地域おこし協力隊の活用分野として今後検討したい。
- ・町で新規就農条例が整備されたが、その後、活用があったとの話を聞かない。せっかくの制度なので、関係機関（農協・農業委員会）が協力して支援・受入れ体制を作る必要があるのではないか。相手は人生をかけて入ってくるんだから。
新規就農者が頑張っている姿が、良い刺激になって、地域全体の盛り上がりにつながっている所もある。
→町：既存の就農者の支援を重視してきた経緯もあるが、町の将来を考えると人材育成を含めた新規就農支援は大切。希望者と事業者を取り持つ専任的な調整役が必要と感じる。新たな地域の仕事になる可能性がある。
- ・牛舎を新築して集乳道が変わった場合、整備が必要になる。町の整備事業は終了したと聞いているが、復活してほしい。
- ・私道の除雪対策について、対象世帯の高齢化が進んでいる。年金暮らしでの費用捻出が年々厳しくなっているとの声がある。将来的にはもう少し配慮してほしい。
- ・天塩や豊富では、（個人所有の）畑に設置した排水の清掃等の維持事業を行っていること聞いたことがある。開発に頼んでもやってくれるような話だが。

○認定こども園について

- ・今後の運用に向けて、幼稚園教諭免許を持つ職員は集まっているのか。体制ができていないのであれば、町内在住の資格者への声掛け等の必要があるのでは。
→町：現在3名の募集に対して何名かの応募があります。

○地域交通について

- ・患者輸送バスの利用者が少なくなっているように感じる。高齢利用者がさらに高齢化

して利用頻度が下がっているような気がする。

・夫婦で仕事がある家庭にとっては、保育所の送迎があると助かる。

→町：今後の認定こども園の運用にも関わる部分。今年度試行を試みた際には、希望者がいなかったが、要望はあるということに改めて認識した。

○意見交換会について

・幌延町民としての意識を高めるためにも今回のような意見交換会は必要。出前講座の活用も今後、考えていきたい。

→町：青年部などの団体の総会に直接伺っての意見交換についても今後検討したい。

・今回の意見交換をまちづくりにしっかり活かしてほしい。

→町：全ての要望に応えることはできないかもしれないが、行政と町民との意思疎通を図るためにも、このような機会を設けながらまちづくりを進めたい。

【補足】

○託児について～3名の利用がありました。

○意見交換会における町からの説明事項

(1) 地域おこし協力隊の活用について

(2) 幌延深地層研究センターについて

(3) 幌延町議会について

※町からの説明資料を希望される方、内容に関する問い合わせ等は、役場総務課企画振興グループへお願いいたします。

電話：5-1111（内線222・223・224）

告知端末機：5-8812

メール：zusr-som-kis@town.horonobe.hokkaido.jp

